

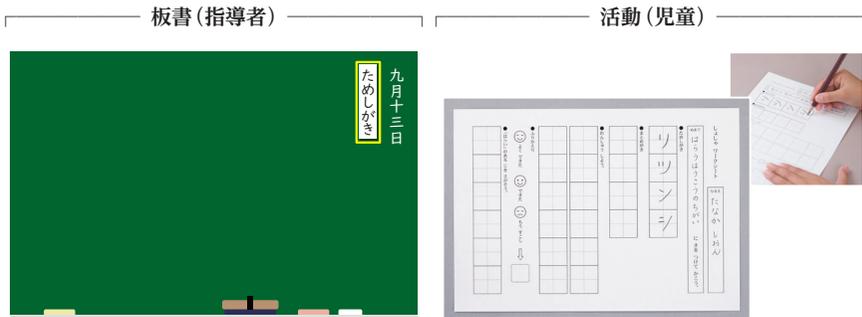
水書用筆を活用した授業の流れ

【小学校国語科(書写) 内容解説資料】この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っています。

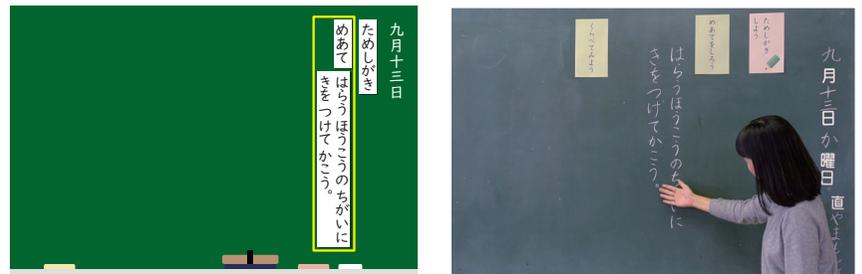
水書用筆は、扱いが簡便で弾力性に富み、時間の経過とともに筆跡が消えるという特性を持っています。その特性を生かして、点画の始筆から、送筆、終筆(とめ、はね、はらい)までの一連の動作を繰り返し練習することは、学習活動や日常生活において、硬筆で適切に運筆する習慣の定着につながります。以下に、1単位時間の授業のなかに水書用筆を効果的に取り入れる授業の流れを紹介します。

授業の流れ

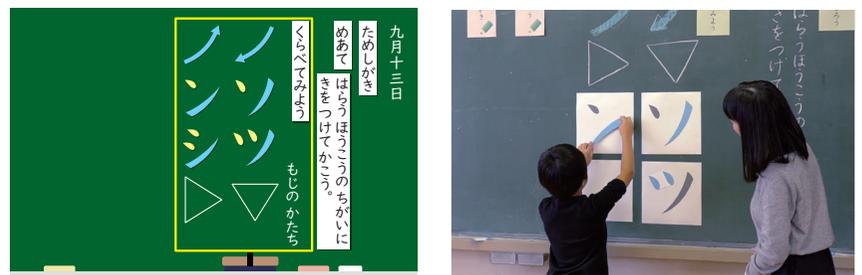
1 試し書きをする。



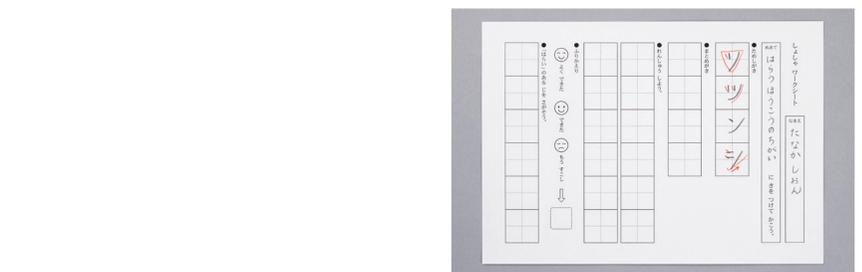
2 本時のめあてを知る。



3 基準(ねらい・ポイント)を知る。

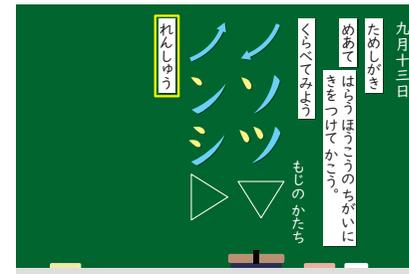


4 試し書きと基準(教科書の文字)を比べて自己批評をする。



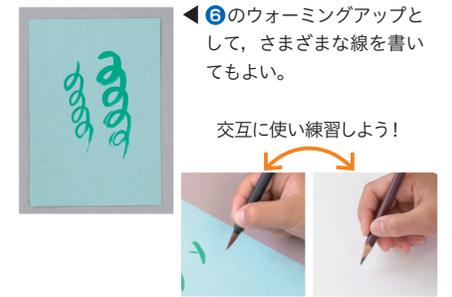
①～④で
15分程度

5 基準や自分の課題を意識して、硬筆で練習する。



6 水書で練習する。

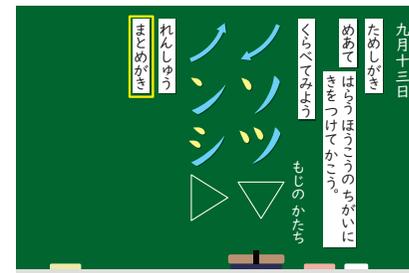
⑤、⑥で
15分程度



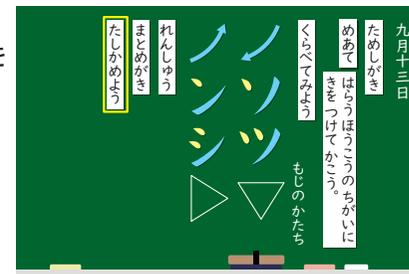
水書用筆を使用することで……

- 「はらい」の筆圧を体感する。
- 水書用筆で送筆や終筆を意識して書き、硬筆でも同じ感覚で書けるようにするため、水書用筆と鉛筆を交互に使い練習する。

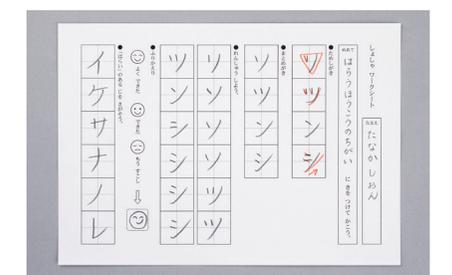
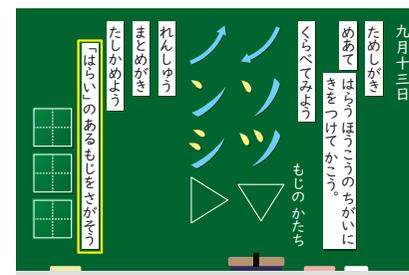
7 まとめ書きをする。



8 自己評価・相互評価をする。



9 他の文字に生かす。「はらい」がある文字を探す。



⑦～⑨で
15分程度



「かたかなの ひょう」から「はらい」がある字を探そう。

